

2023年度
第1回 理事会議事録

2023年 5月 23日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2023年度 第1回理事会議事録

1. 日 時 2023年 5月 23日 (火) 14:00～16:50
2. 場 所 鉄鋼会館 802号室
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 14名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議事次第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 審議事項
 - 第1号議案 2022年度 事業報告及び決算承認の件
 - 第2号議案 2023年度 正会員会費額承認の件
 - 第3号議案 第56回通常総会招集及び議案確認の件
 - (6) 報告事項
 - 1) 委員会等活動状況報告
 - ① 中期ビジョン検討委員会
 - ② 人材育成委員会
 - ③ 50周年記念事業準備委員会
 - ④ 運営委員会
 - ⑤ 技術委員会
 - ⑥ 技術者資格検討WG
 - 2) 高規格材鉄骨関連の対応について
 - 3) 副資材等価格高騰対応について
 - 4) 特定技能外国人材関連情報について
 - 5) その他
 - (7) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2023年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (8) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は 14 名すべての理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「本日は、2023 年度の第 1 回の理事会ということで、活発な議論をお願いします。6 月は総会、7 月は 50 周年と行事も色々と予定されていますが、様々な課題について、今後 1 年でしっかり仕上げていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2022 年度第 10 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 審議事項

第 1 号議案：2022 年度 事業報告及び決算承認の件

「2022 年度事業報告」について、事業の状況、会員の状況、役員・職員の状況、会議開催状況等の重要部分が、議案書[理 23-1-議 1]<p3-23>にそって平井総務部長、新村技術部長より説明された。

引続き、「2022 年度 決算」について、貸借対照表、正味財産増減計算書、予算との差異、公益目的支出計画実施状況が議案書<p24-36>にそって平井総務部長より説明された。

説明の要点は以下のとおり。

○「2022 年度決算」は、第 9 回理事会(3 月 14 日開催)において説明した「2022 年度決算見込」と概ね同様の内容。対予算差異では、コロナ禍による事業の縮小・延期等の影響が大きいとの説明があった。

○貸借対照表

- ・「資産合計額」は、1013,762 千円で対前年度差+20,102 千円増であった。
- ・「流動資産」は、526,490 千円で前年度から 21,297 千円増加したが、これはコロナ禍のために事業規模が縮小し、費用が減少したことが影響している。
- ・「退職給与引当資産」が、72,526 千円で前年度から 8,031 千円減少したが年度途中で退職者対応による取崩しの影響。
- ・その他固定資産額増加の中には、柱試験体の対応分が入っている。
- ・以上の結果、期末の「負債及び正味財産合計額」は、前年度末比+20,102 千円増加して、1013,762 千円となった。

○正味財産増減計算書

- ・「経常収益」は 348,140 千円で、対予算 5,712 千円増加であった。これは、構成員のグレード構成が上位グレードに変化したことによる会費単価のアップの影響が中心である。
- ・「経常費用」は約 301,331 千円で、対予算▲57,087 千円減であった。これは、コロナ禍のために一部の事業の実施の見送りや規模縮小したことなどにより、会議費、旅費、賃借料、謝金等の費用が減少したことによるものである。
- ・以上の結果、「当期経常増減額」は、+46,809 千円増加[対予算比 62,799 千円増加]となり、「正味財産期末残高」は、938,412 千円となった。

○公益目的支出計画実施状況

- ・公益目的支出計画実施状況に関し、公益目的財産額は、計画実施前の 2013 年度期首には 528.1 百万円であったが、2022 年度には 51.7 百万円消化し、期末残高は 16.4 百万円となっている。当初計画では、計画完了は 2027 年度であったが、2023 年度中には、完了する見込みとなっている。

また、事業報告及び決算書類に関しては、定款 25 条、43 条の規定による監事 2 名の監査を受け、適正であることが確認されている旨 報告された。

上記説明に対する質問、意見等はなく承認され、原案どおり 6 月 16 日開催予定の第 56 回通常総会へ付議することが確認された。

第 2 号議案：2023 年度 正会員会費額承認の件

各県のグレード別構成員数と、会費規程に定める正規額から 10%減額した単価を前提に計算した各正会員の 2023 年度年会費額が、議案書[理 23-1-議 2]〈p39-40〉により提示された。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認され、総会承認を経て本金額を各正会員宛てに請求することが確認された。

第 3 号議案：第 56 回通常総会招集及び議案確認の件

第 56 回通常総会の招集に関し、議題、開催日時、場所、審議事項、議決権行使の方法等について、議案書[理 23-1-議 3]〈p41-45〉にそって、平井総務部長から説明された。また、議案書が配布され、議案の確認が行われた。

本案に対する意見、質問等はなく、原案通り承認され、総会開催日の 14 日前までに、本招集通知及び議案書を全会員宛てに発送することが確認された。

尚、総会当日の進行について、議長及び議事録署名人の推薦に関する提案が永井会長から行われ、了承された。

総会議長 ： 北海道支部 佐藤理事

議事録署名人 ： 関東支部 秋山理事、北陸支部 寺田理事

(6) 報告事項

1) 委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会

「中期ビジョン検討委員会」について、議案書（p48-50）にそって大島副会長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・委員会の中で議論を重ね、ビジョン、ミッション、パーパスという形で、協会のありたい姿をまとめた。
- ・今後は、業界の未来予想に基づいた将来的な問題の抽出等を行っていく予定。

② 人材育成委員会

「人材育成委員会」の内容について、議案書（p51-56）にそって、研修の概要とWG活動については大竹副会長から、研修カリキュラムの内容は小貫専務から説明があり、確認された。内容は以下の通り。

- ・次世代経営研修の日程を調整してきたが、概ね決まってきた。
- ・研修のカリキュラムは、第1部：「人と組織のマネジメント」、第2部：「トップマネジメント」、締めで「経営者が従業員に伝えるべきこと」という章立て。当初は、2日間の日程で考えていたが、1.5日前提で検討中。
- ・今後2-3か月かけて、テキストを作成。研修の進め方としては、グループ討議を中心に進める予定。グループ討議時には、各開催地の支部長、理事長等にも、アドバイザーとしてご協力をお願いしたいと考えている。
- ・10月の開催に向けて、8月末に模擬研修の開催を検討し、本番に備えたい。
- ・「人づくり研修」について、WGの名称とメンバーが決まった。2024年秋からの研修スタートに向けて、検討を進める。

③ 50周年記念事業準備委員会

「創立50周年記念事業準備委員会」について、議案書（p57-58）にそって総務部滝本課長より、以下の内容が説明され、確認された。

- ・学識経験者の感謝状贈呈者として20名を選出した。
- ・民間企業在籍者で、協会事業に貢献いただいた方にも感謝状を贈呈することとし、対象者は14名。
- ・祝賀会については、立食になった事も踏まえ、過去の三役、事務局役員を含め、案内することとする。
- ・記念事業のPR映像は、来週で6件全ての撮影が終了する予定。

④ 運営委員会

「運営委員会」については、議案書（p59）にそって、総務部滝本課長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・「働き方改革対応」については、ゼネコンの働き方改革への対応によって、ファブ業界にどのような影響が出るのかということについて、引続き検討を行う。
- ・支部の位置付け（インボイス関連）について整理を行った。

5) その他

①各地域の陳情活動等について

各地域の組合等が、幾つかのテーマについて、独自に国への要請・照会を行うという事案があった。国への接触等に際しては、全構協との連携を取って活動していただきたいとの説明があった。

②図面決定の適正化向けての要望書

関東支部より、「図面決定の適正化」に関する要望書（議案書 71p）が提出された。本内容は、業界にとって重要なテーマであるとの認識に基づき、今後の動き方、働きかけ方を検討するためのWGを設置することとした。リーダーには秋山理事にご就任いただき、WGメンバーの選定を含め、検討を進めていくこととした。

③2023 年度陳情活動について

コロナ禍で、規模を縮小して行っていた陳情活動について、2023 年度は、従来の内容で、会長、副会長に出席していただき実施することを確認した。今後、陳情の内容、日程について、鉄建協とつめていくこととした。

④構成員登録料の運用変更について

構成員登録料について、議案書（p73）に沿って、外税対応に変更することが説明され、確認された。

⑤全国鉄骨評価機構からの株式購入要望について

全鉄評から、個人保有株式（16 株）の全構協への購入要請がきていることが報告された。個人株主縮小は従来からの既定の方針であり、全構協が購入する方向で進めていくことが確認された。

⑥賛助会員の新規加入申込みについて

日本製鉄のグループ会社である、「日鉄溶接工業」より、賛助会員の新規入会の要望がきていることが報告された。内容的に問題がないことから、入会手続きを進めることとした。

⑦建設キャリアアップシステムを活用した技能者の能力評価制度について

建設キャリアアップシステムを活用した技能者（現場の溶接工、鍛冶工）の能力評価制度に関する提案が鉄建協からきていることが報告された。まずは、今後の仕組みの検討に向けて、現場溶接工の人数規模等について、調査をすることとした。

⑧出張旅費（宿泊費）の見直しについて

コロナが落ち着いてきたこともあり、関東圏を中心に宿泊費が高騰していることを踏まえ、三役より、関係者の安全な宿泊を確保するという観点から、宿泊費の値上げが提案された。具体的には、現行：12,000 円／泊を 18,000 円に変更する方向で旅費規程の改定を進めることとした。

尚、以上の報告に対し、理事の中から、理事会審議事項の事前連絡について、あらためて要請があり、確認された。

(7) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2023年3月31日時点の構成員数は、前回報告時(3月14日)より9社減少し、2,172社であること等が、議案書(p75-78)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2022年度の鉄骨需要量合計は、431.3万t、前年度比92.6%となっていることが、議案書(p79)により報告された。

3) 2023年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p80)により確認された。

4) 支部報告

[北海道]

- ・ 凶面の決まりが悪い、設計見直しや工期延長で苦勞している。積算量は、記録的に低水準。材料費等、コストアップ分が見積りに反映されていない。
- ・ 半導体工場のラピダスについては、本体は道外との話しもあるが、周辺部分を含め、期待大。

[東北]

- ・ Hグレードは、受注残確保。M以下は、やりくりしながら何とかやっている。
- ・ 電力料金のアップ分についても、価格への反映に苦勞している。

[関東]

- ・ 各種コストアップの影響が出ているが、単価に反映されず厳しい。
- ・ 相変わらず、中小物件は少ない状態。

[北陸]

- ・ 先の北陸の地震では、あらためて鉄骨造の安全性が確認された。行政は、鉄骨の価格と納期の安定性が確保されれば、更に進むと言っている。
- ・ 人材不足、物流の24年問題が、足元あらためて顕在化している。

[中部]

- ・ 引き続き、凶面の遅れ、人材不足の問題がある。
- ・ 一方、少しずつ物件が出てきているとの情報もあり、夏以降に期待。

[近畿]

- ・ Hグレードは、大型案件中心に確保。中小の物件は厳しい。
- ・ 価格も依然として厳しいが、やや上昇の傾向が見うけられる。

- ・ 今後は、近畿内の地域差、近畿全体の状況等について、情報を共有化していく必要があると認識している。

〔中国〕

- ・ Hグレードは、首都圏案件を中心にバックオーダーを抱え堅調。
一方、地元の小規模ファブは、物件が枯渇状態で、厳しい状況継続。
- ・ CLTへの置き換えが進展している、特に中国地区で波及している状況があり、問題。S造化推進の取組みが必要。

〔四国〕

- ・ 見積りは相変わらず厳しい状況。加工賃は、やや上昇の傾向あり。
- ・ 引き続き、適正価格の確保に努めていく。

〔九州〕

- ・ 著変なし。大型案件は堅調、中小は苦戦という状況が継続。
- ・ 凶面遅れは深刻。
- ・ 労務問題も深刻、ますます外国人材にたよる構造が進んできている。

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 島	嗣 雄
〃	大 竹	良 明
専務理事	小 貫	武
理 事	佐 藤	正 記
〃	三 浦	隆 宏
〃	秋 山	順 一
〃	寺 田	健 信
〃	柏 原	正 明
〃	出 雲	津 芳
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹
〃	五 月 女	久 和

理事総数	14名	うち出席者	14名
監事総数	2名	うち出席者	2名